

平成19年8月の熱中症による救急搬送人員数等の公表

総務省消防庁では、平成19年8月の主要都市における熱中症による救急搬送人員数等を取りまとめましたので、その概要を公表します。

1. 背景

平成19年夏は、梅雨明けが関東甲信越、東北地方等で8月1日と例年より遅れたものの、梅雨明け以後、連日真夏日が継続し、ここ数年来でも記録的な暑さとなりました。特に8月16日には、埼玉県熊谷市、岐阜県多治見市において、73年ぶりに日本の最高気温を更新（40.9度）しており、熱中症による救急搬送も増加したものと考えられます。

このため、総務省消防庁では、全国政令指定都市の消防局及び消防本部、東京消防庁、埼玉県熊谷市消防本部並びに岐阜県多治見市消防本部（以下「調査対象地域」という。）のご協力のもと、平成19年8月の主要都市における熱中症による救急搬送出場件数等を取りまとめました。

2. ポイント

- ・ 梅雨明けが遅れたことなどから、救急搬送人員等が低水準に留まった7月に比べ、調査対象地域における8月の救急搬送人員数の累計は、148,494人と最近4年間で最多であり、このうち、熱中症による救急搬送人員は、4,047人を数えている。
- ・ 8月中の熱中症による救急搬送人員数及びその総救急搬送人員数に占める割合は、調査対象地域全体で過去3年間の平均が1,497人及び0.8%であったのに対し、今年の熱中症による救急搬送人員数は2.7倍の4,047人、また、総救急搬送人員に占める割合は2.7%にのぼった。特に猛暑を記録した埼玉県熊谷市及び岐阜県多治見市では、熱中症による救急搬送人員数及び総救急搬送人員数に占める割合は、それぞれ42人及び6.4%、19人及び6.4%となっている。
- ・ また、各地で今夏の最高気温を記録した8月16日及び17日では、調査対象

地域全体の熱中症による救急搬送人員は、それぞれ 493 人及び 455 人にのぼり、8 月中最多となった。なお、埼玉県熊谷市及び岐阜県多治見市においては、8 月 16 日の総搬送人員に占める熱中症による救急搬送人員の割合は、それぞれ 26%及び 33%と報告されている。

3. 添付資料

- ・平成 19 年 8 月の主要都市における熱中症による救急搬送人員数等（別添 1）
- ・最近 4 年間（平成 16 年から平成 19 年）の 8 月の主要都市における熱中症による救急搬送人員数等の推移（別添 2）

（連絡先）

消防庁救急企画室

担当：荒木専門官、奥田事務官

電話：03-5253-7529

FAX：03-5253-7539

